

子どもアドボカシーセンター福岡 設立までの経過

子どもアドボカシーセンター福岡は、子ども NPO センター福岡が 2018 年度より 2020 年度まで実施した「子どもアドボカシー事業」を引き継ぎ、独立アドボカシーセンターとしての機能を高め、アドボカシーの制度化に備えるため、新しい NPO 法人として設立された。以下、これまでの経過とともに、引き継がれるべき課題の概要を記載する。

I. 子ども NPO センター福岡 子どもアドボカシー事業の経過 (2018 年度～2020 年度)

■2018 年度

1. 子どもアドボカイト養成事業(キリン福祉財団助成)

- (1) 公開講座:「子どもアドボカシーをひろげよう!」(講師:栄留里美) (110 名参加)
 - (2) 連続講座 10 回 (2018 年 9 月～2019 年 1 月)(2h×2 コマ×5 日)(51 名受講)
- ##### 2. 緊急企画シンポジウム「カナダとイギリスの子どもアドボカシーに学ぶ」(2019 年 2 月)
- (シンポジスト:菊池幸工・堀正嗣・栄留里美)

■2019 年度 (トヨタ財団助成)

1. 公開講演会:「イギリスに学ぶ子ども・若者のアドボカシー」 (2019 年 7 月:102 名参加)

講師:ジェーン・ダリンプル氏(英・アドボカシー研究者)

2. 子どもアドボカイト養成講座

(1) 入門編 (2019 年 7 月～9 月)

内容:子どもアドボカイトの基本理念とスキルを学ぶ(2h×2 コマ×5 日)

受講:40 名 (修了証書受領:36 名)

(2) 専門講座 (2019 年 11 月～2020 年 2 月)

内容:子どもの権利の視点で多様な子どもたちの現状を学ぶ(3h×2 コマ×6 日)

受講:23 名

*子どもアドバイザー(小学5年～高校3年)参加

3. 子ども・若もの委員会の設置と活動

「福岡市社会的養育のあり方検討会」より受託し「子どもの声を聴かせてワーク」実施。施設、里親家庭の子どもたち 15 名から聴いた声を、政策検討の場に反映させた。以後、活動を継続させて、施設の子どもたちとの交流が続いている。

4. 子どもアドボカシーシステム研究会 (2019 年 10 月～3 回)

国によるアドボカシー制度化の動きを見ながら、福岡市におけるシステムのあり方について議論する場として設置。行政との協働による研究会で、とくに、あらゆる子どもを対象としたアドボカシーシステム「福岡モデル」の構築を目的として、教育委員会からの参加もお願いした。

高校生ゲストスピーカーの発言をきっかけとして、「権利ノート」を検討するワーキンググループが立ち上がった。

研究会の構成メンバー

	氏名	所属など
◎委員長	◎安孫子健輔	弁護士、(特)そだちの樹 事務局長
○副委員長	○坂本 雅子	(特)SOS 子どもの村 JAPAN 常務理事
	相澤 仁	大分大学福祉健康科学部 教授
	荒川美沙貴	里親家庭経験者(2019年度のみ)
	木村 康三	福岡市里親会・ファミリーホーム
	重永 侑紀	(特)にじいろCAP 代表
	中村みどり	Children's Views and Voices(CVV) 副代表
	中村 隆	福祉型障がい児入所施設 若久緑園 園長
	宗 健太郎	福岡市こども未来局こども家庭課(2020年度桑野裕史氏に交代)
	市丸日出夫	福岡市教育委員会指導部 教育相談課主任指導主事
	椎原 康文	福岡市こども総合相談センターこども支援課家庭移行支援係長
	大谷 順子	(特)子どもNPOセンター福岡 代表理事
	牛島 恭子	(特)子どもNPOセンター福岡 事務局長

■2020年度(トヨタ財団助成)

1. 子どもアドボカシー基礎講座(2020年8月～9月)

内容:①独立アドボケイトを受け入れる子ども現場の環境づくり
②アドボケイトになるための入門編として(2h×2コマ×3日)
対象:59名(オンライン参加49名)

2. アドボケイト養成講座(2020年10月～12月)

内容:アドボケイトの実践めざすロールプレイ・トレーニング重視の講座
対象:2018年度、2019年度、2020年度の基礎講座の受講者20名(3h×2コマ×6日)

3. 子ども・若もの委員会(CYりぼん)の活動

前年度「聴かせてワーク」の活動を担ったメンバーが“CYりぼん”の名称で核となり、社会的養護の子どもたちとの交流を続けている。この関係を土台にして、子どもアドボカシーシステム研究会のもと、子どもたちとワークショップしながらユニークな「権利ノート」を作り上げた。

4. 子どもアドボカシーシステム研究会(2020年6月～2021年2月5回)

①福岡市における子どもアドボカシーシステムの望ましい将来像、市民が担う「子どもアドボカシーセンター」のデザインを中心課題として5回開催。

②研究会での検討から「子どもアドボカシーセンター福岡」の準備室が立ち上がった。

③CYりぼんと連携したワーキンググループによる、ユニークな「権利ノート」が生まれた。支援者向けの「ハンドブック」が課題となり、作業は次年度に引き継がれる。

5. アドボケイト養成の記録集(報告書)の作成

アドボケイト養成プログラムのさらなる充実をめざして、3年間の養成講座を振り返り、今後への礎とするために報告書を作成した。

6. 広報・啓発

子どもの権利条約の理念、子どもアドボカシーの周知を目的とした広報は大きな課題。とくに子どもたち自身への啓発活動を重視して取り組んだ。社会的養護の子どもに向けた「権利ノート」、地域の子ども向けの「子どもの権利ミニブック」が成果物となった。今後も引き継ぐべき重要課題となっている。

■「アドボカシーに関するガイドライン案」実証モデル事業(2020年10月～2021年2月)

厚労省の委託を受けた三菱UFJリサーチ&コンサルティングの調査事業の一環として、福岡市とともに、一時保護所・児童養護施設、里親家庭へのアドボケイト訪問を中心としたモデル事業を実施した。

養成講座で研修を受けたアドボケイト5名、スーパーバイザー2名、事務局でプロジェクトを組んでこれに当たり、貴重な経験をした。

II. 子どもアドボカシーセンター福岡の設立へ

2020年6月の第17年度通常総会において、子どもアドボカシーセンターの設立を目指すこと、そのために準備室を設置することが決議された。それに基づいて諸準備が進められ、2021年4月25日の設立となった。